

【Ⅱ子どもをはじめ若い世代を対象】

北九州よしたろう会 事業詳細

事業名	「新しい学校の古典」フェス2025			交付決定額	300,000円
趣旨・目的	未来を担う子供たちに本物の「能楽」を体感してもらい、600年以上の歴史がある日本の伝統芸能を大切に守っていかねばならない事を伝えたいと考えている。 学校の授業で習っている(習った)「古典」を学ぶ意義を日本の伝統芸能である「能楽」を実際に体験してもらうことで、改めて考え、より身近に感じてもらうことが目的である。				
実施内容	演目・曲目等				
	・能楽、狂言、囃子、の解説と実演・ワークショップ ・語り物「魚太平記」の面白さ解説 ・「北九州子ども能楽教室」お披露目(高砂・老松・兎・魚説法) ・狂言「魚説法」				
	構成・出演者・主なスタッフ等 / 展示作品の種類・点数、主な作品名・出品者名等				
	観世流シテ方能楽師 今村嘉太郎 / 囃子方能楽師 飯富章宏 相原一彦 和泉流狂言方能楽師 吉住 講 吉良博靖 北九州市立大学文学部比較文化学科 教授 渡瀬 淳子 先生				
実施日時	2025年12月13日(土) 15:00開演		実施回数	1	
実施会場 (会場住所)	三宜楼(北九州市門司区門司港)		参加人数	21	
実施の成果	助成金活用による工夫や実施の成果				
	本年は門司港エリアを選定。三宜楼での開催により能楽と歴史的建造物の相乗効果を図った。質を落とすことなく魅力を最大限伝えるため、ワークショップはシテ方1名と囃子方2名、メイン公演を狂言(狂言師2名)とし、必要最低限の人数で多様な要素を体験できるプログラムを実現した。昨年同様「時間割形式」を継承しながら新たな取り組みとして「北九州子ども能楽教室発表会」を組み込み、次世代育成と能楽の敷居を下げる効果を狙った。三宜楼での開催は参加者から「場所の雰囲気能楽の世界観にマッチ」等の好評を得た。 門司港地域の全小中学校にチラシを配布し、SNS発信、Web特設ページ開設、電子チケット導入など多様な申込手段を用意したが、当日の雨天により参加者数が想定を下回り、小中学校へのチラシ配布にもかかわらず小中学生の参加が少なかった。運営ボランティアの確保も困難であった。今後は教育委員会との連携強化により学校現場での告知協力や授業との関連づけを検討し、地域の文化団体・大学等との連携で持続可能な運営体制を構築したい。				
	活動の様子				
					
最も注力した年齢層(計画)	12～17歳	参加者等の主な年齢層(実績)	6～11歳	18～39歳	40歳以上
(共催・後援・協賛関係機関がある場合)名称と役割	【後援】北九州市、北九州市教育委員会、福岡県				
その他特記事項					